大会名	第43回全国高等専門学校サッカー選手権大会 第4日 決勝			観衆	400 人	天候	晴れ	風	無
会場	豊田市運動公園陸上競技場	ピッチ	芝	状態	全面良芝	温度	32.1 ℃	湿度	51 %
日時	2010年8月24日（火） 10:00	試合時間	80 分	延長	20 分	ＭＣ	三浦靖一郎		
主審	佐藤 隆治	副審	羽矢 吉克	副審	御辺 晃司	第4審判	川勝 彬史	記録	田口 諒弥

チーム名						チーム名
近畿大学高専	2	0	前半	0	1	鹿児島高専
		2	後半	1		
KICK OFF						

交代 No	交代 時間	シュート 延長	シュート 後半	シュート 前半	シュート 計	得点	選手名	番号	位置	位置	番号	選手名	得点	シュート 計	シュート 前半	シュート 後半	シュート 延長	交代 時間	交代 No
	ＨＴ				0		西本 晃生	1	GK	GK	1	池田 康平		0					
				1	1		岩本 陽平	2	DF	DF	2	中瀬 裕貴		0					
			1		1	1	播野 功樹	3	DF	DF	3	小山 智樹		0					
	79 分				0		笠松 亮良	4	DF	DF	6	有馬 斗茂哉		0					
			1		1		加藤 亮祐	15	DF	DF	8	花田 篤隆		0					
	69 分		1		1	1	升田 圭典	5	MF	MF	9	久保 寛	1	2	1	1			
			2		2		森岡 貫太	7	MF	MF	10	郡山 弘夢		0					
					0		坂本 大斗	14	MF	MF	13	福山 哲平		3	2	1			
	60 分			2	2		谷 尚起	16	MF	MF	14	中迫 哲大		0					
	ＨＴ				0		津田 佑介	9	FW	FW	7	溝口 聡真		1	1				
			4	2	6		牧野 隼也	10	FW	FW	17	日當 康志郎		1	1				
1					0		内山 朋彦	17	GK	GK	16	日高 友樹							
4					0		中林 亮太	13	DF	DF	4	岩戸 敦史							
9			2		2		笠嶋 洋平	6	MF	DF	5	瀬崎 圭							
16					0		小林 尚誠	8	MF	MF	11	溝口 敬也							
5			1		1		内山 太輔	11	FW	FW	12	北野 晃平							
										FW	15	児玉 修也							

警告・退場					監督	監督	警告・退場				
57 分	警	2	岩本 陽平	ラフ	栢野 智裕	北薗 裕一	50 分	警	2	中瀬 裕貴	ラフ

後半	前半		チーム合計		前半	後半
12	5	17	シュート	7	5	2
5	10	15	GK	8	5	3
2	2	4	CK	3	2	1
9	5	14	直接FK	13	8	5
1	0	1	間接FK	4	1	3
1	0	1	(ｵﾌｻｲﾄﾞ)	3	1	2
0	0	0	PK	0	0	0

得点経過 （凡例： ～ドリブル、 →ゴロのパス、 ↑浮球のパス、 ×混戦、 Sシュート、 Hヘディング）

時間	得点チーム	得点者		アシスト		スコア	得点経過
48 分	鹿児島高専	9	久保 寛	3	小山 智樹	0-1	右CK ③ ↑ 中央-1 ⑨ 右足S
64 分	近畿大学高専	3	播野 功樹	6	笠嶋 洋平	1-1	左-1 ⑥ → 中央-1 ③ 右足S
65 分	近畿大学高専	5	升田 圭典	6	笠嶋 洋平	2-1	左-1 ⑥ ↑ 中央-1 ⑤ 右足S

ＰＫ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16

戦評 （ 三森敏司 ）

大会最終日，三連覇を狙う近畿大学と三年ぶりの優勝で復活を期す鹿児島の四度目の決勝対決は，両チーム共，4:4:2の闘い。序盤一進一退の攻防は，近畿大学が15分左サイドからの展開で⑨津田のシュートが鹿児島DFにあたりボールはゴール左隅へと飛んだが，鹿児島GKが上手くはじき出して先制を免れた。その後も左サイドを中心にパスサッカーを展開する近畿大学に対して鹿児島もゴール前に強固なブロックを構成して対抗した。33分鹿児島②中瀬の左からのグラウンダーのクロスに飛び込んだ⑨久保のシュートを近大GK西本がファインセーブで決定機を防ぎ，前半は0-0で終了した。後半序盤の48分，鹿児島③小山が右CKをゴール前に低い弾道で入れ，中央で待ちかまえた⑨久保が右足で先制した。両チームの動きが活発を呈した57分，近畿大学のシュートが2度ゴールバーをたたき鹿児島GK池田が必死にセーブしたところを近畿大学の選手が蹴ってしまい警告。これによって今大会のフェアプレーチーム賞は該当なしとなった。その後更に両チームの攻防は激しさを増したが，近畿大学は左サイドの選手交代によって攻撃のリズムが活性化。65分に⑥笠嶋から中央の③播野へと渡り同点，直後の66分にまたしても左⑥笠嶋のパスを中央で待ちかまえた⑤升田が右足のジャンピングボレーを決め逆転に成功。同点の興奮から冷めやらぬ電光石火の出来事であった。試合はその後近畿大学がペースを握り試合を支配してタイムアップとなった。両チームとも個人技に優れ良く鍛えられたチームであったが，5年生を主体とした近畿大学が一日の長で落ち着いた試合運びを見せ逆転優勝（5回目）となった。鹿児島は4年生以下で構成するチームで低学年も多く，来年以降21回目の優勝に向け期待の持てるチームである。例年以上の猛暑の中，4日間戦い抜いた両チームに称賛の拍手を送りたい。